

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	おれんじキッズ&児童デイサービス・アニマートちゃん2号店		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 13日		2025年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 13日		2025年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタッフ同士で話し合う土壌がありコミュのケーションが多い。	利用者の変化に気づき、気になった事は、直ぐに話し合う様にしています。また、必要な時は、他事業所と連絡を取って共有した支援に繋げる事が出来る。	利用者を取り巻く環境との繋がりを把握しつつ、研修等で障がい特性の理解に努める。 広報誌「スマイリー」等により「ちゃん2号店」の魅力を発信していく。
2	子供達の変化や成長を共有しています。	朝礼でその日の利用者に殿スタッフが付き、どのような活動をするのか話し合っ支援に取り組んでいます。 活動後の振り返りに寄って、その日の利用者の様子や活動内容の情報を共有しています。	個別支援計画書の確認と見直しを行う。 アセスメントシート(更新時)の作成による子供達の変化や成長の把握を図る。
3	子供達の状況に応じた対応ができる。	アラハピー子公園や屋外バスケットボール・夏休みの海水浴等、楽しめる環境作りを行っています。 周辺の公園等を把握して、状況に応じた活動や遊びをしています。	野外や屋内の環境を活用して支援をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の活動や住民との関わりが少ない。	感染症や、インフルエンザ・コロナの影響で、外部との関わりを持つ機会が少なかった。 「保育園や幼稚園」等との交流や地域の子ども達と活動する機会を「活動」として提供できていません。現在は、併行通園に向けて療育と言う位置づけとなっています。	現在行っている地域の公民館活動で遊んでいる地域の小学生との交流をさらに進めていけたらと思います。 近隣の沖縄中央学園(こども保育科)の専門学校生のボランティアや様々な実習を受けいれたらいいな。 地域のイベントについて情報収集を行う。
2	保護者会や保護者の研修の場が少なさ。	利用者の複数事業所の利用が多く、場面設定が難しく保護者からのニーズが乏しい。 交流の機会を求める声と、現状で満足との意見が分かれるため、ニーズに応じた柔軟な対応が求められています。保護者会の頻度も年1回ありますが、参加も兼ねている為、交流の時間が少なくなっているのが要因と考えています。	保護者会の方の要望などを伺いながら、必要とされている交流の方法などを検討して行きます。
3			